

## 元気あおもり応援隊会議（大阪圏）

日時：平成30年11月8日（木） 18時～  
会場：ホテルグランヴィア大阪「鶴寿」

「元気あおもり応援隊会議（大阪圏）」を平成30年11月8日（木）午後6時からホテルグランヴィア大阪（大阪府大阪市）で開催しました。

当日は、16名の応援隊の方々が参加し、会議では「『北海道・北東北の縄文遺跡群』世界文化遺産登録に向けた取組」をテーマに意見交換を行いました。

その概要は、次のとおりです。

-----

（青森知事 三村申吾）

皆さん、こんばんは。

2年ぶりという方もいらっしゃいますけれども、本当に皆様お元気で、しかもほぼ全員の方にご出席いただき、感謝申し上げます。

皆様方におかれましては、この大阪圏域におきまして、さまざまな場面で「青森の元気づくり」にご支援いただいております。厚く御礼申し上げます。



さて、今の青森県の状況でございますが、今年度は「青森県基本計画未来を変える挑戦」の最終年度であり、現在、計画の総仕上げを行うとともに、今般、次期計画であります「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」の最終案をとりまとめたところでございます。

人口減少社会にありましても、県民が安心して働き、暮らしていける青森県を実現していくためには、県民一人ひとりの豊かな生活を支える経済基盤となる「生業（なりわい）づくり」が重要となります。そのため、本県の強みである農林水産業や観光分野など「経済を回す」取組を重点的に、本気で進めてまいりました。

全国に先駆けまして取り組んできた「攻めの農林水産業」につきましては、平成28年度の農業産出額が2年連続で3,000億円を超え、13年連続で東北トップを堅持するとともに、全国順位も7位となりました。また、知事に就任してからの成長が25%で全国でもダントツトップ、所得がほぼ倍に伸びるというような状況にもなっております。

また、新規就農者の数もこの5年間で1,340人、6年間では1,500人ということで、コンスタントに300名弱が青森に帰ってきてくれたり、あるいは新規就農だったり、「農業で食っていけるぞ」というような状況がでてまいりました。

観光の面では、国際定期便の青森・天津線や台湾海外チャーター便の就航、韓国・ソウル便の

冬期の週5便化など、充実していきまして、私どもが提案した仕組みである、陸・海・空を組み合わせた「立体観光」を強力に推進した結果、震災以降のインバウンドの伸び率は5倍以上になりました。加えて、昨年の外国人延べ宿泊者数は過去最高の24万人に達し、宮城県とほぼ並ぶなど非常に勢いがあるところがございます。

また、皆様方のおかげでございます。JAL大阪 - 青森線につきましては、一部機材が大型化し、席数が増えました。ANA便を含め、三沢を入れますと1日7便という体制が整いました。

また、本日のテーマでございますが、世界文化遺産登録を目指している「北海道・北東北の縄文遺跡群」につきましては、今年7月に文化審議会において国内推薦候補に選定されたものの、今年度から自然遺産と文化遺産のどちらか1つを推薦するというなかで、来年度以降の推薦ということになりました。

ただ、今日、文部科学省におじゃまさせていただいて、非常に強いお言葉というか、絶対これは進めていくというお話をいただきました。我々としては、北海道・岩手県・秋田県ともども、1万年に渡って、縄文の全てが、最初から最後までであるのが私ども4道県でありまして、この強みというものの、そして平和、今、世界にとって大切なことは、平和と環境の保全と調和だと思いますけれども、非常に平和的で尚且つ、狩猟民族だけれども定住していた、そういった価値というのでしょうか、世界の基層文化的な価値、あるいは日本の我々の生き方の背骨にあるものの平和主義と自然と調和していくというか、そういった価値というものをしっかりと打ち出していきたいと思っています。

すでに今年、フランスにおきまして、日本とフランスの友好160年ですが、その中において縄文の出土品を出展してくれということで、大変な好評をいただいているところがございます。そういった、海外からのご要望もいただきながら、2020年度は無理でしたが、2021年には必ずという方向で頑張っていきたいと。そういった点を今日、これから報告をさせていただきたいと思っております。

私ども白神山地という自然遺産を持っておりますが、文化遺産ということで、この2つのうちの1つの大きな青森の存在価値として、国内だけでなく国外にも伝えていきながら、青森の元気づくりを前に進めていきたいと思っている次第でございます。

本日は忌憚のない意見交換させていただいて、我々も頑張っていきたいと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

#### 【「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録に向けた取組について】

世界文化遺産登録推進室長及び室長代理が、資料に基づき県の取組状況を説明

(知事)

我々も4道県で連携して非常に努力を重ねてきたのですけれども、今回は自然遺産候補の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が推薦となりました。

しかし準備期間をいただいたと前向きに考えまして、体制を整えた上で着実に登録を実現すると、その姿勢で向かっていきたいと思っています。

何と言っても国内においてもいろいろな応援のムードが上がってくるのが大事でございます。そうした点を含めていろいろと今日はアドバイスをいただければと思います。よろしくお願

いいいたします。

(司会)

それでは意見交換に入ります。

はじめに飛鳥様よろしくお願いいいたします。

(飛鳥久範氏)

私は縄文にはあまり関心がございませんでしたが、3年前に、学生時代の友人約50名と三内丸山に行きました。

その時の感想を含めて申しあげますと、空港から市内に入る途中で無理矢理連れてこられたのだけれども、「これ、すばらしい。」というのが最後の結論です。

その時のお話からいきますと、縄文だというPRがあって、1万5千年前だとか、そういうところがポンポン出てくるけれども、それを先に出してもらっても「ああ、そうか。」で、その後ボランティアの方に説明いただければ全くそのまま過ぎてしまうということなので。

逆に考えますと、もうちょっと入口で、過去にこういう縄文があったということ、ロマンがある説明から入っていったらいいんじゃないかということをおっしゃいました。



それから遺跡の知名度とか認知度なのですが、青森県内に17の遺跡、ほとんど三内丸山遺跡なので、もっと知名度をアップする方法があるんじゃないかなと思います。

去年、八戸に行った際には是川縄文館を案内してもらったら、素晴らしいなとびっくりしました。このことの発信が少ないんじゃないかなと。

それから、地元の気運の醸成といろいろ書かれていましたけれども、これは、むしろ行政の方でどんどん進めていくべきだと思います。イコモスというのは必ず地元の気運が醸成されているかということをお参考にするということなので、もう強制的にやらないとなかなか気運が盛り上がってこないのではないかと。

また、世界遺産登録後の受入れ対策も出ていましたけれども、単に行政の人とか、あるいは既にボランティアをしている人、そういう方々の対応だとか、設備、体制についてもうちょっと具体的な政策を出していかないと。行政はどんどんやっていると言うけれども、実際にはそうじゃないところもあるのではないかとというのが、私の意見です。

今年から三内丸山遺跡が有料になると。私は、四、五年前から知事に申し上げておりましたが、そういうのも必要ではないかなということをお申し上げておりました。

(知事)

ありがとうございます。

確かに高速を降りるとすぐですし、空港からも近く、ロケーション的にはバツグンの場所にあるのですが、だからこそ、ややもすればこれでもかと、押しつけがましいところもあったのでは

ないかと思えます。

実はあれだけの大遺跡な割に、出土したものをきちんと展示して説明をする場所がなかったのです。やっと11月22日に展示収蔵施設がオープンすることとなりました。ただ見せるというだけではなくて「なるほど、こういうことなのか縄文は」というのを、お見せできるようにします。

我々も2020年に向けて作戦を立ててきたのですが、その第1弾としてそういうことを進めることにいたしました。

三内丸山とか是川、シャコちゃん(遮光器土偶)で有名な亀ヶ岡は有名なのですが、確かにその他の遺跡群は、ということがございまして、来年度の県のベンチャー事業で、従来型の展示やPRではなくて、「おー、縄文好きになっちゃう」といった好きになる人を増やすという取組を行うこととしています。

また、イコモス対策は本当に大事でございます。フランスでは高い評価をいただいております。4道県の知事にいろいろな声をかけて、海外向けのパターンも進めているところです。

気運醸成については、相当盛り上がっていると自分では感じているところです。

(世界文化遺産登録推進室)

いろいろな取組をしていて、すでに効果も出てきておりまして、今年の遺跡を回るツアーというのが数としても非常に多くなっています。広がりとしては、カルチャーセンターですとか博物館の友の会ですとか、そういったところが出てきているみたいで、これをさらに普通の旅行のツアーの商品としても定着するようにということで、いろいろなところに今、働きかけをしているところでございます。

(知事)

凄いよ、下條先生。縄文ユビキタス化とか、何かやらなければと思っているんですよ。

(下條真司氏)

ロケーションサービスとか、いろいろありますので。遺跡が分散しているから上手くつなぐといい。

(知事)

そうなんです。何とかまたお力を。

(飛鳥久範氏)

3、4年前に三内丸山に行った時、展示してあるものについて「これ、現物ですか?」と言ったら「いや、違います。現物は市内の違うところにあります」と言われたことがあるんです。あれは解決したんですか。



(知事)

それを11月22日から新しい展示収蔵施設で展示します。

(世界文化遺産登録推進室)

重要文化財等に関しては、展示する条件がございまして、今回整備することによってその条件がクリアされますので、これからは本物が常に現地で見られるということになります。

(司会)

続きまして中島様よろしくお願いたします。

(中島久宜氏)

私は、縄文時代ですと火焰型土器というものが真っ先に頭に浮かぶのですが、この地域ではその火焰型土器の出土が無いようですね。新潟辺りの方で火焰型土器が出ているようなのですが、縄文時代、日本全国結構交流があったのでしょうか。

だから、この北東北だけが抜きん出て縄文を自慢するのではなくて、日本国として他の地域の縄文の遺跡のチームとシンポジウムを開いたりして、お互いの良さを言い合ったり、交流してお互いがどういうふうにうまいこといったのかなどを話し合うような場を設けると、例えば大阪とか新潟とか九州の方で、新聞にも北東北の取組を紹介していただけるようなきっかけになるのではないのかなと。縄文時代、あまり閉鎖的に文化が発達したわけではなさそうだと聞いていますので、日本国内の各地域で交流した様子をアピールしたらいかがでしょうか。

また、世界遺産ということであれば、日本人が良いと言っているだけでは駄目なのですね。普遍的価値という言葉が一番最初に出ていたので、それは何かと言ったときに、日本人が思う、想像するような普遍的価値じゃなくて、おそらく、欧米人が思っている普遍的価値なのではないのかなと。だからそこに耐えられる理論武装をしておかないといけないのではないのかなと思っています。



例えば私、元農林水産省なのですが、「水田というのはもの凄く自然・地球にやさしい」なんていうことを農林水産省では言っていたのですが、OECDに持っていった途端、「水田なんていうのはヘドロで、温暖化ガスを発生させているのだ」なんていう言い方をされて、「全然地球にやさしくない」と言われて、ガクッときたのです。

それくらいカルチャーショックというのですか、彼らが考えていることというのは我々が思っている程度のことでは済まされないで、盛り上がるのはいいのですが、日本人の間だけで盛り上がっているような価値観というところを冷静に見つめ直してもらって、しっかりエビデンスを積み上げていってもらえたらいいのではないかと思います。

いくつかあるのですが、パンフレットの写真で必ず出てくる三内丸山です。

欧米は石づくりですから、エビデンスが直接出てくるのですよね。石が出てきてそれを積み上



げれば復元出来るわけ。三内丸山では、地上部に出ている復元されている構造物というのは出てきたものなのか、というのがすごく気になっています。

(知事)

想像の産物ですね。

(中島さん)

想像の部分というのは、普遍的価値とか、彼らから言ったら保護すべきものとかというふうにつながっていきかねないかもしれないというくらいの危惧を持って、理論武装をしておいていただいた方がいいのではないのかなと思います。

(知事)

ありがとうございます。

いろいろな交流が日本にあるということですが、青森県のある会社の方がカメラマンとしても凄い方で、そのことをいち早く感じたらしくて、日本中の縄文の写真を撮ってくれて、写真集にして解説も付けて、しかもフランス語にまで訳したものを作っていただきました。

我々も、今後そういう応援をしてもらいながら、いっしょに盛り上げていくと。そのきっかけとして、日仏友好160周年に日本の国宝級の縄文を山形や長野からもフランスへ出していたで、実際に日本の文化はこういうものだ。ただ、価値とすれば、1万年の流れを全部把握出来るのはうちだということのPR活動等を進めているところでございます。

欧米人に対しては、推進室長も向こうに行って営業活動をしています。それからイコモスの方々に青森に来てもらい、いろいろな会議をし、具体に見てもらいアドバイスをいただき、そんなことを重ねてきました。営業は得意ですから。きっちり押えていくという取組を進めているところでございます。

(世界文化遺産登録推進室)

まず火焰型土器に関しましては、あれは新潟と周辺のごく一部の狭い範囲にしか分布をしない特殊な土器といってもいいと思います。岡本太郎が評価をしたということで、世界的な知名度がありますけれども、あれでもって縄文の価値全てを語ることは困難です。

それから世界遺産の場合には出土品などの物ではなくて不動産、遺跡として世界遺産の価値をもっているかどうかということが判断されますので、往々にしてその物の価値と遺跡の価値とが必ずしも両方セットで対応するものではないという、非常に難しいところがございます。

日本の縄文の場合、特に北海道・北東北の場合ですけれども、世界的価値というのは人類の歴史上でどのような価値があるのかということ、きちっとやはり説明をしなければいけないわけですが、人類はアフリカを出てから限りなく定住に向かって進んでいるわけです。その際にヨーロッパですと、定住というのは基本的には農耕と牧畜が基盤となります。ただ日本列島においては、縄文時代において狩猟、狩りと採集と漁労、この3点セットでもって定住を達成したというのでは、世界的には極めて珍しい。この価値を主張しているところでございます。

それから三内丸山の復元に関しましては、あれは世界遺産の評価の対象には含まれません。地

下にあるものだけが当然ながら評価の対象となっておりまゝす。但し、行きますと地上に見えるわけですから、これがどういう経緯でこうなったかという説明は求められるかもしれませんが、あれ自体は評価の対象にはならないといったようなところでございませぬ。

(誘客交流課)

ちょっと広い範囲ではないのですが、北海道新幹線を契機に、北海道と青森県全体で、JR東日本さんとJR北海道さんと一緒になりましてキャンペーンをさせていただきました。それが28年度でございませぬ。

29年度には観光キャンペーンということで、青函を周遊するという商品をつくっていただくという取組をしっかりとやりました。北海道と本県、津軽海峡を挟んで近い関係なのですが、それぞれ違った魅力を持っております。

来年は道南全ての18市町と本県が一緒になって、縄文を含めていろいろな情報発信をしてまいりたいと思っております。

それから、先ほど関西の方にも情報発信ということであったのですが、実は「ディス(り)カバリー」という動画を作りましてYouTubeで公開しております。この中でも三内丸山遺跡についての情報を発信しております、28年度に作ったものが50万回再生、29年度に作り出したものが20万回再生というようにPRさせていただいたところでございませぬ。

(司会)

それでは続きまして細田様、よろしくお願ひいたします。

(細田雅人氏)

今年の8月に大平山元遺跡に行つてまいりました。係の方も非常に親切で、もの凄く丁寧に説明してくださつたのと、学校の建物を使つていると思うのですが、もの凄くいい資料館だつたと思ひました。



そこにプロモーションのビデオがあつて、それを最初から最後まで拝見しました。そこで係の方に「これつてすばらしいのだけれど英語の説明は無いの?」と聞いたら、そういうものは作つてないという話がありました。

一方でインバウンドを含めて、これは世界遺産登録を目指しているのだから、先程の中島様の話にもあつたように、相手は英語圏の人たちが圧倒的に多いので、最低限、何としてもそこはやっていただきたいと思ひています。

ですので、全ての所に最低限英語を入れていただくための時間ができたと思ひていただいて、というような感じでおります。

(知事)

ありがとうございます。まさしくご指摘のとおりでございまして、我々、各遺跡の整備は進め

てきたのですけれど、世界遺産候補推薦に向けて注力してきました。

県庁のベンチャーチームと各構成遺跡群のチームで、これからいろいろな作戦会議が始まることとなりますが、最低限英語はなんとかしていかなければいけないと思っています。フランスを中心としてヨーロッパでの営業というのも最終的には勝負所はそこだと思っています。

(文化財保護課)

まず三内丸山遺跡のインバウンド対策ということで、ちょうど今年度になるのですけれども、遺跡の中にある案内板、それとすぐ隣のガイダンス施設である縄文時遊館のサインのたぐいが、これまで日本語と英語だけであったのですが、韓国語と中国語、中国語は繁体・簡体の、全部で5種類の言語に対応するよう、整備が進められることになっております。

(世界文化遺産登録推進室)

英語版のプロモーションビデオにつきましては、実は既に作ってございまして、公開されていなかったのは非常に残念ですが、4道県全体の英語バージョン、それから各道県の英語バージョンを作っておりますので、大方のところでは多分映像を見ることが出来たかと思います。たまたま大平元山では、それが徹底されていなかったということにつきましては、帰ってから再度点検をしたいと思います。なお、英語版のプロモーションビデオはYouTubeでも公開しております。

(細田雅人氏)

先ほど伺ったように、例えば韓国語、あるいは中国語をお考えであれば、本当であればそういう日本の側の都合とか東アジアの都合ではなくて、例えばアラビア語など、そういう方が本当は世界という意味でいうとより有効かもしれないですね。

(司会)

続きまして向瀬様、よろしくお願いいたします。

(向瀬正人氏)

8月にりんごの会で青森に来て、その時に、時間がありませんでしたので竜飛岬まで行きました。そこで驚いたのは、竜飛岬と書いた碑みたいなのがあって、あと展望台と丘の上にホテルがあるだけ。あとは何も。私ここまで来て、竜飛岬まで来たんだけど、と。

あそこにもう少し賑わいの場所や、食事が出来るところがあれば観光客を引けるのではないかなという、そんな感じだったのです。

途中、きれいな道路が通っていますし、いろいろな案内板が出ているのですけれど、それぞれの遺跡のところへ行っても同じようなものなのかなという心配があります。行けば分かったのかもしれませんが、行かなかったものからです。

こういう遺跡になれば、当然古代の人の食べていたようなものをメニューに出すレストラン





があるとか、観光バスが走っているとか。でも、竜飛岬までの行き帰り、観光バスには出会わない。

ですから、そういう観光ルートをつくりあげていく、そしてそういう賑わいの場所があるというのが、観光客を誘致するにはいいのではないかなと思います。

(知事)

本当にそのとおりでございまして、今回、何度か話しているのですけれども、県庁の若手職員のチームがこの縄文の観光も含めたルート設定と、具体的に縄文の弁当を作るとか土産をどうするとか、そういうソフト方面の取組も提案してきたので、向瀬様からお話していただいたようなことに取り組もうとしているところです。

(誘客交流課)

確かに向瀬様がおっしゃるとおり竜飛の方は何も無いと感じると思います。ただ一方で三大半島巡り、二大半島巡りといのは非常に首都圏、あるいは関西圏、中京圏、九州圏からもお客様が来ております。

これ何故かという、逆に何も無い所に行ってみたい、いわゆるツアーの名称は「秘境を回る旅」ですとか「最果ての地を回る旅」と。要は普段、体験すること、見ることは無いと思うのですけれども、そういう所に行ってみたいという思いが非常に強くなるようでございます。このツアー、今でも非常に人気のツアーでございます。

それから、その確かにいい観光バスがございません。何とか民間事業者さんと連携して作っていただければなと思っておりますが、いろいろ問題もありましてまだ現実になっておりません。

ただ、観光ルートは県のアプティネットというホームページがございまして、そちらの方で観光ルートを公表しておりますが、まだまだ多くの方々に周知されていないなど、ご意見を賜って反省しておりますので、これからは積極的にいろいろな青森県の情報発信をしてみたいと考えております。

(観光企画課)

観光の方ですけれども、縄文を観光という切口でもってどういうふうに発信していけるのかというところで、知事が申しましたように、来年度からベンチャーの若手チームが頑張っ取組を進めていく予定でございますので、楽しみにしていただければと思います。

(企画政策部長)

世界遺産登録を獲得するというのも非常に大事でございますが、やはりその世界遺産登録を獲得した後に、青森県としてどういうふうにこれを地域の活性化につなげていくかということが、私ども一番大事だというふうに思っております。

その意味で特に観光ルート、この遺跡をどういうかたちで巡っていくかという観光ルートにつきまは、まだ手つかずの部分がございますので、これは来年度以降しっかりと充実した取組としてとらえて、県としては、若手のベンチャー、観光セクションが一体となって、重点的に取組を進めていきたいと思っております。

(知事)

本当にご指摘のとおりでございまして、2年間しかないものですから、その間に4道県こぞっていいルートをつくって、どれだけ感動というか知ってもらおうというのですか、これはいいぞというのを感じてもらおうための取組をしたいと思っております。

(司会)

では、山田様よろしくお願いたします。

(山田武弘氏)

縄文遺跡というのは、僕はぼんやりとしか知識がなかったのですけれど、深く学ばせていただいて、大変ありがたいと思っております。

世界史的に見れば、メソポタミア、黄河、その辺の文明の大体は1,000年から3,000年くらいですか。三内丸山は4,000年くらいですかね。ですから世界4大文明に勝るとも劣らない立派な文明だと思いますし、大平山元の土器のかけらか何かは1万6千500年前と、本当に悠久の歴史を感じさせてくれる立派な遺跡だと思うのです。

ですから、世界遺産に登録されるための条件はいろいろな厳しいものがあるかと思うのですけれども、こちらの方は専門家に詰めていただきとして、私をご提案申し上げたのは、「縄文ファンクラブ」のような、子どもから大人まで誰でも参加出来る、会費はもろんなしで、そういったものをつくって、底辺からの気運を盛り上げるのはどうかと思ってご提案させていただきました。

缶バッチを作って会員に配ったらということなのですが、バッチが出来ているんですね。明日から僕もつけようと思います。

それから、ギネス世界新記録に登録された折り紙で作った巨大オブジェですか、ああいう何か面白おかしく楽しんで参加できるような企画をやって、ポトムアップをやっていけば、直接世界遺産のための支援にならないかもしれませんが、その後の観光という面では結構大きい力になっていくと思っています。

世界遺産登録は、多分2～3年のうちには間違いなくなると思います。僕も三内丸山を何回か行きましたけれども、白神も2回ほど山まで登りましたけれども、やっぱり青森県はすばらしいそういう場所を含めて遺産を持っていると思います。これからどんどんそういう取組を強めて、知事さんを先頭にやっていただければいいなと思っております。

(知事)

ありがとうございます。

ファンクラブや応援団がいっぱいいてくれないと、実際、寂しいですよ。県内の様々な団体の方々が「やろう、やろう」ということでこのバッチが作られました。



今、法人や団体の会員が95団体で、賛助会員が7,000人を超えるというくらい盛り上がっておりまして、みんなで縄文のことを語り合ったりしております。その一環で、去年は世界最大の考古学の授業をやってみたりとか、今年はイノシシの出土品に模した折り紙をつくったりとか、面白おかしくというかみんなが興味を持ってきています。また、若い人に人気がある歌手に来てもらって、縄文ギャルが集まるコンサートをしてみたりとか、縄文が大好きだからと応援してくれる外部応援団がすごくにぎやかになっています。

(世界文化遺産登録推進室)

外ヶ浜町の大平山元遺跡については今年度に立ち上がる予定なのですが、それ以外ではもうすでに地元の民間の皆さん、遺跡を保存活用している団体を立ち上げて、活動をしているところでございます。

長いところでは20年を超えるような活動実績がございまして、中には文化庁の長官表彰もいただいたところもあります。あまり報道はされませんが、実績を着実に積んできたといったようなところがございます。

あと一つ大平山元で今年度立ち上がりますと、全ての遺跡において民間の活動団体が出来上がって、このことも世界遺産になる評価の対象に含まれると思いますので、我々としては着実に実績を積んでいけるよう今後とも支援をしていきたいというふうに考えております。

(知事)

ここ数年、世界遺産登録推進国際フォーラムを東京の大きなホールで開催しているのですが、本当にものすごい数の参加申込みが来て、これだけの縄文ファンがいるのかと、熱狂的なのですよ。もう頑張れ、頑張れと。

これだけ長い期間、平和的に皆で、しかも自然と共生できて生きてこられたという点で、有り得ないくらい幸せな時代というか、もちろんそれは天変地異もあり病気もあったとしても、そういう時代のすばらしさということも多く日本人の方々が感じてくれている。これを欧米の方々にもご理解いただけるよう一生懸命進めていきたいと思っています。

今日は、縄文の関係で、高市さんから、日本人のルーツを調べるプロジェクトとして研究が進めばよいなどの応援をいただきました。ありがとうございます。また、津曲さんからも、もっと縄文文化を広めていくべき、知ってもらうべき、頑張してほしいというようなお話をいただきました。ありがとうございます。また、山口さんからも縄文の精神性、これは今の日本にとってすごく大事なのではないかなということをも自分も感じるのですけれども、精神性に注目することが必要ではないか、そういったご提言をいただいたことをご報告しておきます。

(司会)

最後に、ご質問がある方がいらっしゃれば。

それでは、塩村様お願いします。

(塩村浄氏)



この土偶を見ていますと、非常にハイクオリティな生活スタイルを感じます。私の住んでいる所が難波の宮の遺跡の所です。そこで出てくる埴輪とか、百舌鳥とかから出てくる埴輪なんかと全然違う、非常に生活感のあるものですね。全国を回っていても、北海道から出てくる埴輪とよく似ていると思って、だから流れとしてはそういう流れがあるのかなと。

もう一つは、例えば平川市とか八戸、ここで出てくるのは非常にアートな、文化的にも、非常にクオリティの高い作品だと思うのです。衣装まで非常に綺麗につくっている、そういうものは階層からいえばどういう階層の人たちを対象にしているのかなとか。

結論から言いますと、いわゆる関西から出てきている土偶とか埴輪なんかとちょっと違いますよ。やはり生活感と、その階級社会をきちっと表現しているものですよということが言えるのだったら、それを加えて言うことの方がアピールとしてはもっと効果的ではないかなというふうに思っております。

(世界文化遺産登録推進室)

土偶につきましては、実は青森県が全国で最も多く土偶が出土している県でございます。ただ世界遺産の場合にはその出土品ではなくて、遺跡そのものが評価されるということもございしますので、遺跡を説明する際にこういった土偶も有効活用していければというふうに考えております。

縄文の土偶の場合には同じものが2つとして無い、一点一点全て違うというところがやはり埴輪とは大きく違うところでして、作成時における思いというものが非常に強かったということが言えるかと思えます。

土偶も時代とともに数が増えてきますので、当初はやはり限られた人たちが使うものだったのが、時代とともに広く普及していく、そういった姿を示していると思えます。

これは弥生時代になると基本的には作られなくなりますので、世界にアピールできる典型的な縄文の大きな要素だと思っております。

芸術性に関しては、外国の方はこういったものを非常に高く評価するというところがありますので、土偶を入口にして遺跡の価値を主張していければというふうに考えております。

(司会)

県の取組説明及び意見交換はこれで終了とさせていただきます。

大変活発なご意見ご提案ありがとうございました。